

中小企業診断士の視点

@にいがた

第50回

自己理解と経営者



中小企業診断士 樋口 圭治
(一社)新潟県中小企業診断士協会

以前このコーナーで、「自己理解の勧め」というテーマで執筆し、その中で「優れた経営者は自己理解に長けている」というようなことを書かせていただきました。今回は、私がそう思うきっかけとなったエピソードをご紹介しますと思います。

1-1. 著名な芸能人の事務所勤務

私は以前東京で、全国的に著名な芸能人の個人事務所に、経理スタッフとして勤務した経験があります。多くの方がその名を聞いたことがあるかと思います。その芸能人の個人事務所で、一応株式会社という形になっており、本人が筆頭株主であり代表取締役となっていました。私達事務所スタッフは、本人を「社長」と呼んでいました。ここではI社長と呼ぶことにします。

1-2. 会議での出来事

I社長は著名な方ですが、事務所自体は社員約10名と個人商店のようなものでした。私が事務所に入社して初めて参加した会議のことを、私は生涯忘れることはできません。

それはI社長の発言です。社内会議では、I社長は経営者として発言します。そこではテレビに映っている自分、ステージの上に立っている自分を、客観的に商品として捉えて、その商品をどうアピールすればファンに受けるか、という角度で発言しているのです。それも、ファンが自分をどう見ているかを的確に捉えていました。

この発言を聞いて、私は衝撃を受けました。当時の私は、自分が他の人からどう見られているかというのを考えるのがとても苦痛でした。どうしても自分のいやな部分を見てしまうからです。I社長はすごい、と単純に感じました。やはり成功するには、自分自身を十分に理解する必要があるのかな、と初めて認識しました。

1-3. それぞれの思考

その後、I社長と接しているうちに、この人は3つの思考を持っているのではないかなと感じるようになりました。

①芸能人としての思考、②経営者としての思考、③プライベートな時間の思考

この3つの思考をそれぞれ使い分けて、それぞれの立場でお互いを客観的に捉えている、そんな印象を持つようになりました。

2. 私なりの活用

私はその後、故郷である新潟に戻り、新潟の企業勤務の後、中小企業診断士として活動している訳ですが、I社長の思考を私なりに活用をしています。

中小企業診断士の樋口圭治は、個人樋口圭治の中に存在するもう一つのキャラクターで、個人の樋口圭治が中小企業診断士の樋口圭治を演出している、というイメージです。

中小企業診断士の樋口圭治というのは、私が理想とする中小企業診断士の姿です。中小企業診断士の樋口圭治は、周囲から見ても自分自身から見ても、私が理想とする姿でありたい、と考えています。

【問い合わせ先】

新潟県中小企業診断士協会

ホームページ：<https://www.n-smeca.jp/>

電話：025-378-4021

Eメール：office@n-smeca.jp